

# オリーブ通信

2023年8.9月号  
2023・9・9発行  
第257号



<http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>

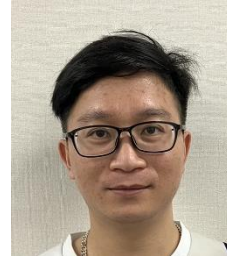
新しいなかまを紹介します



シライシ レシチア  
(ブラジル)



シライシ ルイス  
(ブラジル)



ダオ クアン ハイ  
(ベトナム)



ファム ティ ガン  
(ベトナム)



レー ティ リン  
(ベトナム)



モンテマイヨル アイスリー  
(フィリピン)



モンテマイヨル メラニー  
(フィリピン)



よろしく  
お願いします

## 中川先生のへんてこ日本語

確かに

155



「これだけ暑いと、健康な人でも病気になってしまいそうですね「確かに」。  
こんな「あいづち」を打つ人が多い。「確かに受け取りました」「確かにおっしゃる通り  
です」などのように、「確かに」は、副詞として使われるのが常であったが、いつの間  
に「あいづち詞」に化してしまった。「確かにそうだ／確かにおっしゃる通りだ」が短縮  
されたのだろうか。

「あいづち」といえば、「そうそう／はい／いや／えっ」などが会話の活性化として用  
いられ、それぞれに「同意」「反意」「確認要求」などの機能を有しているが、「確かに」な  
ら、「同意」を意味するのだろうか。日本語では、「あいづち」を頻発することで、相手と  
の距離を確認しながら会話を進行させることが知られている。

また最近では、「物価上昇に見合った給料が期待できない」「それなや」「支払いは現  
金のみで、電子マネーは厳禁です」「そっちか」などもよく聞く。つまり「あいづち」の打  
ち方が変化すると同時に、会話の進め方にも変革が起ころうとしている。「はい／そう  
そう」なら、強く言ったり、素っ気なく言ったりして、相手の顔をうかがうことがで  
きたが、「確かに」には、「同意を示すだけで、相手の出方を確認する機能はない」。

ネットで物事を済ませ、人との接触が希薄になってくると、会話がうまく進められ  
ないばかりか、ちょっとした言葉のニュアンスも感じ取れなくなってくる。「そんな  
つもりで言ったのではない」と、誤解を生むことも稀ではないだろう。

それよりも筆者としては、会話の楽しみがなくなってしまうのが寂しい。「確かに」

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄

# オンラインスピーチ大会

2023年 8月26日(土)  
18時半～20時半  
キラリエ草津 502・503会議室  
スタッフ・学習者合計41名参加

「いまちょうど初級の人が多くて…」「休みがちで連絡がとれなくて」「なかなか原稿ができないけど大丈夫かなあ」と、直前まで開催が危ぶまれましたが、「名前を言うだけでもいいから参加してみようよ。」「たのしいゲームもプレゼントもあるよ。」と、スタッフの熱心な声かけもあり、昨年を上回る参加がありました。



- 入門 シライシ レチシア (ブラジル)  
シライシ ルイス (ブラジル)
- 初中級 ジョランド ラバゴ カニエテ (フィリピン)  
ガイレ スミクラ(ネパール)  
李 晶(中国)  
レ ティ リン (ベトナム)  
司馬 ナナ (中国)  
ファム ティ ガン (ベトナム)
- 中上級 殷 実 (中国)  
グエン ヴァン フォン (ベトナム)  
ラフマン スガンダ (インドネシア)  
ススサン (ミャンマー)



出場者全員で記念撮影

紙面の都合で全員のスピーチは紹介できませんが、中上級の受賞者のスピーチの要約を掲載します。

## 初級の部 受賞者

1位ガイレ スミクラ (ネパール)



2位 ジョランド ラバゴ カニエテ(フィリピン)



3位 司馬 ナナ(中国)



## 1位 「日本とベトナムの子育てについて」 グエン ヴァン フォン (ベトナム)

日本の子育ては子どもを賢く自立させると評価されている。

ベトナムの親は子どもを叱ることはあってもあまりほめないが、日本の親は子どもがよいことをすると必ず、しかも具体的な文言でほめる。ベトナムでは通学も親や祖父母が連れて行くなど他人に頼って生活しているが、日本の子どもは一人で通学したり買い物したりする。それによって自立心をはぐくむことができる。

しかし、ベトナムの親は一生の親だ。子どもがいくつになっても、恋愛、結婚、子育てなどいろいろな面で子どもを気遣い助けてくれる。いつも守られ無条件に「無限の愛」に守られている。

私も11月には子どもを授かる予定だ。日本とベトナムの教育のよい所を組み合わせたいと楽しみにしている。





## 2位「言語は旅だ」 殷 実 (中国)



子どものころから小説・マンガ・ゲームに親しんできたが、面白そうだと思っても中国語に翻訳されていないと読むことができなかった。高校でいい先生と出会い、英語を学ぶことは点数を取るためではなく、原書を読むスキルを身につけるためにあると気付いた。大学では、親の勧めもあり言語以外の専攻を選んだが、そのおかげで日本の大学で学ぶことができた。

私にとって言語は新しい世界に導いてくれる旅のようなものだ。言語を身につけるたびに私の世界は少しずつ広がっていく。人生は旅のようなものだ。これからもっといろいろな国に行って、もっと多くの言語を学んでいきたい。

## 3位 「あこがれと現実」 ラフマン スガンダ (インドネシア)

子どものころから日本のアニメに親しみ、いつか日本に行きたいと思い日本語の勉強を始め、高校卒業後日本に行くための訓練校に入り1年たってやっと来日した。最初はほんとうにうれしくて、日本のあちこちに行ってみたり、買い物したりしたが、数か月日本にいて寂しさを感じ始めた。新しい友人を作るのがむずかしかったり、家族のあたたかさをなつかしく思ったりした。来日直後の楽しさとは違い、同じことを繰り返す毎日にかかりもした。私が好きなのは日本に暮らすことではなく日本のアニメだったと気づいた。しかし、日本で人間関係や、仕事、責任感などいろんなことを学んだから後悔はしていない。もっと日本語を学んで、日本での経験を生かして、帰国後も日本に関する仕事をしたい。



### 一人ずつに ひとこと感想



今回は、審査員だけでなくスタッフみんなが出場者全員にひとこと感想を書きました。

これからのみんなの日本語学習の励みになったらいいですね。

審査員を代表して恩地さんから全体講評をいただきました。

「素敵なおスピーチ大会でした。発表した全員が、自信をもって自分の今の精一杯を出してくれたと思います。勉強してきた時間や濃さでスピーチに差はありましたが、発表するという行為には差はなかったと感じました。

参加してくれたみなさん、ありがとう！すばらしかったです。指導してくれた先生たち、ありがとう。これからもよろしく！」(恩地)

## さて、審査の間に、恒例の？ ビンゴゲーム！

今回は景品が豪華！みんな盛り上がっていましたね。ほしい景品がゲットできたかな？ スタッフのみなさん、おつかれさまでした～



ビンゴはスマホのアプリで



どんどん数字が増えると書き出すのがいいそがしい～



景品を手にもうれしそう



最後は出場者、スタッフみんなで記念撮影



## 先月の活動(7・8月)

日本語教室 7月 1(M), 8,22,29(4回)  
 8月 5(M), 19(M),26(26はスピーチ大会)  
 7/30(日) BNN日本語教室代表者会議(恩地・福井)



## 今月の活動予定(9月)

日本語教室 2(M), 9, 16 30 (4回)  
 9/2(土) BNN日本語教室代表者会議(恩地・福井)

●日本語教室の(M)は定例ミーティング



## 参加人数(7・8月)



	7/1	7/8	7/22	7/29	8/5	8/19	8/26
学習者	14人	19人	17人	23人	23人	15人	17人
スタッフ	21人	20人	22人	20人	23人	18人	22人



## 会員の動き (7・8月)

〈退会〉なし

〈入会〉下記のお二人



### 木下 朋香

(キノシタ トモカ)  
 立命館大学の1回生です。私の趣味は歌を歌うことです。日本語を教えたことはないですが、精一杯がんばりますのでよろしくお願ひします。



### 山口 朝弘

(ヤマグチ トモヒロ)  
 カントリーソング、フォークソングをこよなく愛しています。よろしくお願ひ申し上げます。



## 2023年度 第1回 7月2日 日本語能力試験 合格者

N1 殷実 (中国)  
 グエン ヴァン フォン (ベトナム)  
 N2 ラフマン スガンダ (インドネシア)  
 ダオ クアン ハイ (ベトナム)  
 グエンド アン (ベトナム)

N3 ブイ ヴァン チャム (ベトナム)  
 テツ ウエイ ヤン (ミャンマー)



前回残念だった人が今回たくさん合格してくれました。雪辱を晴らそうとがんばったんですね。まだ結果の分からない人がいたら確認して、合格していたらオリーブ通信係にご連絡ください。次号に掲載します。

### 編集後記

今年のオリーブのスピーチ大会には初級中上級を問わずスピーチする人のご家族の姿がありました。学習者さんのスピーチへの思い入れとオリーブの存在がご家族にも認識されているということを感じてたいへんうれしく思いました。「このあいだ入会したときにはひらがなも書けなかったのに、あんなに上手にスピーチできるようになったんだね！」など、日頃の姿を思いうかべながらスピーチを聞くことができるのも日本語教室内のスピーチ大会ならではのことですね。でも個人的には、一言感想に熱中してスピーチ録音や写真撮影が十分にできなかったなど反省点がいっぱい。30周年の来年は抜かりなくやります、すみません。(フクイ)